

吉阪俊藏 よしかべ としひさ 隨筆家。明治二十一年九月十五日兵庫縣生れ、昭和二十二年歿（二八八一—一九六六）。號務徳、牧心軒。大正二年東京帝國大學法科大學商法科卒。國際勞動會議日本政府代表、日本・東京商工會議所專務理事、商工組合中央金庫理事長、東京都失業對策委員會會長等を務めた。建築家吉阪隆正の父。

著書に『厚生の書』（上田久七合著、昭和十九年六月一日潮文閣、弘學社）、『醍醐味―牧心軒隨筆』（昭和二十二年一月二十日猶興社）、『コチンアメリカ』（昭和二十九年十月一日桐陰堂書店）、『隨筆インド』（吉阪隆正編、昭和三十四年七月十日柏根書房）等。譯書に、B・H・チエムバレン著『鼠はまだ生きこゐる』（昭和十四年四月一日十五百岩波書店。改題復刊『東西隨想録―鼠はまだ生きこゐる』（坂野清夫編、五十五年十一月大阪・リーチ）、A・シーグナリード著『スイス―デモクラシーの證人』（昭和二十七年二月二十日百岩波書店『岩波新書』）等の他、父吉阪敬信遺稿集『務古老後詩歌』（昭和十六年二月二十日吉阪俊藏編輯）を作った。

